

報 廣 あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 No.153号

町の人口

(50年1月末日現在)

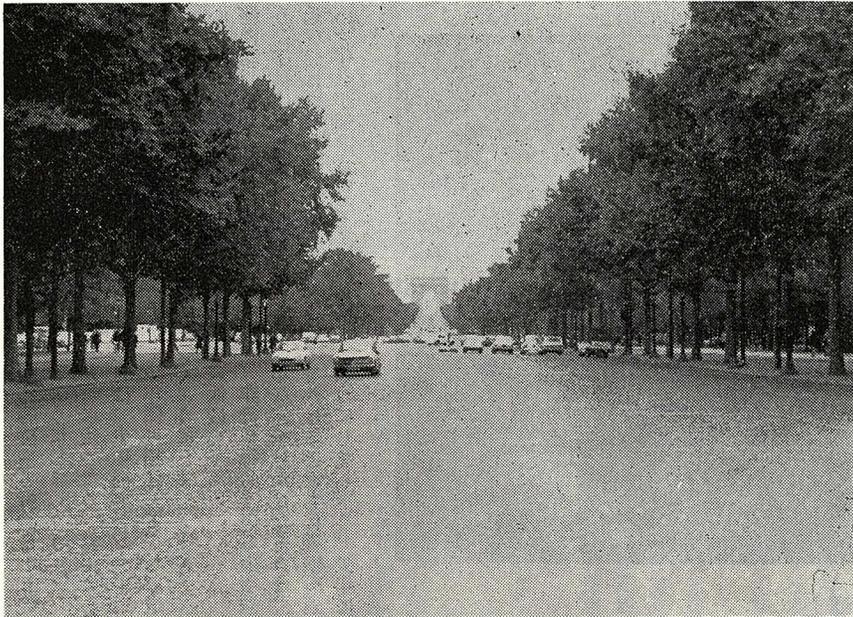
男	4,328人
女	4,809人
総人口	9,137人
世帯数	2,790世帯

渡欧を終えて(四)

赤池町長 池 永輝 昭

朝の八時にテルミーニ駅を出たTEE(特急列車)R68はイタリア本土を北上してフィレンツェ経由で予定どおり十二時過ぎポロニア駅に到着、ポロニア大学

の竹下教授が、我々をホームまで出迎えてくれる。駅近くのレストランで昼食しながら、午後の見学日程を打ち合わせすれども、どこ



(凱旋門通り パリーにて)

と故、その間イタリアの政治経済教育等の現状について詳しく聞かせてもらった。

イタリア滞年在八年にもなる教授の話は、職業柄非常に巧みで、短期間の視察を通じて感想文を書いた報告書等と違い誰よりも確かな見方をしていいると思える。

人口五十万のこの市は、第二次大戦中イタリア解放のため、ナチスと闘って最後まで抵抗を続け、決してドイツファシストに降伏しなかったこと有名である。

レジスタンスに倒れた二十二人の人達の写真は、市庁舎の壁にはめこまれているとのこと。

イタリアの赤い州といわれるエミリア、ロマーニャ、ウムブリアトスカナ三州の中でもポロニアは、フィレンツェと並んでその中心的役割を果たし、歴代共産党員の市長で、市政に責任をもっているのは共産党、社会党、プロレタリア統一社会党で革新連合地方版といったところで、イタリアのなかでも特に左派勢力の強いところである。

行政負担による福祉行政はかなり進んでいるが、市民の生活はそれほど豊かではなく、企業経営者と労働者の所得格差は著しく、ストライキによる操業停止は、たびたびで、日本から視察にきた京都大学のある教授は、これ等の工場がフル操業すれば日本のGNP(国民総生産)をはるかに追いつくであろうと驚ろいたそう。

教授の大学も本来ならば十月一日より新学期が始まるころだが、

賃上げストのため十四日まで休校で十五日からは、今度は学生が一ヶ月間のストライキのため学校に行くのは、十一月十五日からで当分はひまだと、のんきなことをいって我々を笑わせる。

たびたびのストで教授の給料は高いが政府財政が、破産状態のため既に九ヶ月間給料は遅配でいつもらえるかの見通しもなく生活もギリギリに切り詰めているとのこと。財政を上まわる行政需要は、市の台所も当然赤字でその累積は膨大なもので、このツケは一体誰が何時払うのかと、まゆをひそめる。話なかばで店を出てタクシーをひろい、目的のタイル工場へ向け出発する。

車は「太陽の道路」といわれる高速道路をものすごいスピードで走り、はてしなく続くオリブの木とブドウ園を左右に見ながら百軒程離れたフェンツアの町に一時間程で着く。

とある一軒の陶器店を訪れ工場見学を許しを乞うと心よく承諾し案内をしてくれる。十人程の若い娘が馴れた手付きで下書きする作業は特に我々の目を楽しませるここでもやはり我々の質問には懇切丁寧に教えてくれた。

市民のための陶芸教室や博物館等は折角の機会だから是非立寄りようにするめられる。

二時間程で店を出て教えられた陶芸教室を訪れるも本日は午前中で終了とのこと、生徒の作業場は見ることができなかったが管理

(2) ページへつづく